

七条中学校だより6月6号

京都市立七条中学校

令和8年6月5日

発行：校長 林 秀雄

定期テストに向けて3 「覚える勉強」から「使える勉強」へ

定期テストに向けての準備は進んでいますか？これまで皆さんには、「逆算の思考」をもとに目標を立て、計画的に学習を進めることの大切さや、主体的に学びを深める方法として「予想問題づくり」に取り組む意義を伝えてきました。（学校だより5月11号・学校だより6月3号）また、「計画→実行→振り返り」のサイクルを通して、自分の学びを高めていくことも確認してきました。（学校だより6月4号）

今回は、そこからもう一歩進んで、これからの学習で意識してほしい新たな視点を伝えます。それは、「覚える勉強」から「使える勉強」へと変えていくことです。日々の学習の中で、教科書を読む、ノートをまとめる、用語を覚えるといった「インプット中心」の学習になっていないでしょうか。これらはもちろん大切ですが、それだけでは十分とは言えません。なぜなら、定期テストでは「覚えているか」だけでなく、「それを使って答えられるか」が問われるからです。本当に力がつく学習とは、覚えたことを実際に「使う」ことができる状態にすることです。そのために重要なのが、インプットとアウトプットを結びつけることです。つまり、覚えたら問題を解く、理解したら説明してみる、何も見ずに再現してみる、といった学習です。学校だよりでも触れてきたように、「読むだけでなく解くこと」が学びの質を高める大切なポイントです。（学校だより6月4号）

さらに大切にしてほしいのが、「人に教えること・人に説明すること」です。人に説明しようとする、と、「本当に理解できているか」がはっきりします。あいまいなままでは伝えることができず、自分の理解の不十分な部分に気づくからです。また、分かりやすく伝えるために考えることが、自分の理解をより深く確かなものにします。友達同士で問題を出し合ったり、「ここはこう考えるんだよ」と説明し合ったりすることは、単なる確認ではなく、学びを一段高める大切な活動です。「教えることは、学ぶこと」と言われるように、人に伝える経験そのものが、自分の力を伸ばしていきます。

現在取り組んでいる「予想問題づくり」も、この“使える学び”につながる取組です。自分で問題をつくることに加えて、それを友達と共有し、解き合い、さらに説明し合うことで、「わかる」から「できる」へと学びが深まっていきます。（学校だより6月3号）

これからの学習では、ぜひ次の問いを大切にしてください。「どれだけやったか」ではなく、「何ができるようになったか」です。ワークを一度解いて終わりにするのではなく、できるようになるまで繰り返すこと。答えをすぐに見るのではなく、まず自分で考えきること。そして、人に説明できるかどうかで自分の理解を確かめること。こうした積み重ねが、「使える力」を育てていきます。

逆算して計画を立てることは、ゴールから今を考えることです。その計画を本当に意味のあるものにするためには、「できるようになる」こと、そして「人に説明できるようになる」ことを意識した毎日の学習が欠かせません。（学校だより5月11号）

定期テストは、単に知識を確認する場ではなく、「できる力」を試す場です。だからこそ、今取り組んでいる学習が、「使える学び」になっているかを問い直してみてください。皆さん一人ひとりが、「わかる」から一歩進んで「できる」、さらに「人に伝えられる」力へと成長していくことを期待しています。

周りを大切にすること

6月に入り、落ち着いた学校生活が少しずつ形になってきました。教室や廊下での様子を見ていると、生徒の皆さんが友達と協力したり、励まし合ったりする姿が多く見られ、大変うれしく感じています。一方で、慣れが出てくるこの時期だからこそ、「相手を思いやる気持ち」をもう一度見つめ直してほしいと思います。何気ない一言や態度が、相手にとっては大きな影響を与えることがあります。自分では軽い気持ちで言った言葉でも、相手の心を傷つけてしまうことがあるかもしれません。大切なのは、「自分がされてうれしいこと」を周りの人にも行うこと、そして「自分がされて嫌なこと」はしないという、当たり前のようにとても大切なことです。友達の話をしっかり聞く、困っている人に声をかける、感謝の言葉を伝える。こうした小さな積み重ねが、安心して過ごせる学校づくりにつながります。

学校は、さまざまな人と出会い、共に成長していく場所です。一人ひとりが「周りを大切にすること」を持つことで、より温かく、より居心地のよい七条中学校になっていきます。皆さん一人ひとりの行動に期待しています。6月というこの節目の時期に、自分の言動を振り返り、思いやりのある関わり方を大切にしていきたいと思います。